



労働理論・思想の歴史 —神戸におけるアジア経済交流の歴史—
History of the thought on labour —History of the Asian economic exchange
in Kobe

BI 研究所 兼務研究員、経済学部教授 岡田元浩^{*1)}

私は大学院入学以来一貫して経済学の歴史に関する研究を行ってきました。初期は主としてマクロ経済学説の史的展開に関する研究に取り組み、その総括というべきものが、『巨視的経済理論の軌跡 —リカードウ、マルサスから「ケインズ革命」まで—』（1997年 名古屋大学出版会）です。

それ以後は現在にいたるまで労働理論・思想の歴史に関する包括的な研究を続けています。

また近年は、私の担当する学部ゼミで地元神戸の歩みを研究テーマとしていることや、自分の視野を広げたいという思いから、神戸におけるアジア経済交流の歴史に関心を持ち、少しずつ調査を進めています。今後、当領域の研鑽をさらに積み、微力ながら貢献したいと考えています。

*1) 1991年4月甲南大学経済学部専任講師着任。1999年4月より現職。

著書：

(2012) ‘A Reappraisal of Jevons’ s Thought on Labour’ . 『経済学史研究』第53巻2号、21-40頁。

(2011) ‘Marx versus Walras on Labour Exchange’ . 『経済学史研究』第52巻2号、46-62頁。

(1997) 『巨視的経済理論の軌跡 —リカードウ、マルサスから「ケインズ革命」まで—』名古屋大学出版会、1997年。

その他。

研究発表：

‘Kobe and Asia’ . 甲南大学 I B I グローバルシンポジウム、2013年9月21日。

その他。